

第62回市民事業専門委員会の結果概要 (H29. 7. 5)

1 議題 1 委員長の選任について

委員長に増田委員、副委員長に谷本委員が選任された。

2 議題 2 市民事業専門委員会のこれまでの取組成果と課題

資料に基づき、事務局から説明した。

3 議題 3 市民事業専門委員会の活動について

資料に基づき、事務局から説明を行ったのち、検討を行ったところ、次のとおり決定した。

第 63 回専門委員会 平成 29 年 9 月 13 日(水)

補助金一次選考会 平成30年 2 月14日(木)

補助金二次選考会 平成30年 3 月 4 日(日)

(1) 市民事業支援補助金スケジュール

資料に基づき、事務局から説明を行ったのち、検討を行った。

(2) 現場訪問企画(案)

資料に基づき、事務局から説明を行ったのち、検討を行った。

市民事業現場訪問 平成29年 9 月23日

(3) 市民事業交流会企画(案)

資料に基づき、事務局から説明を行ったのち、検討を行ったところ、次のとおり決定した。

市民事業交流会(市民団体活動展) 平成29年12月16日

(第38回県民フォーラムとの同時開催)

4 平成28年度市民事業支援補助金事業実績及び平成29年度交付決定状況について

事務局より資料に基づき説明した。

委員会における主な意見 (○=委員の発言 ●=県側の発言)

【市民事業支援補助金スケジュール】

- 補助金募集案内やチラシで使用している定着支援部門、高度化支援部門の違いが分かりづらいので、文言を変更する必要がある。
- 言葉の使い方だと思うが、イメージがつきづらいので、馴染みのある文言に変更したほうがよいのではないか。例えば、定着支援部門であればスタンドアップ、高度化支援部門では、レベルアップやスキルアップなど。
- 委員からの意見を踏まえ、次回の委員会までに事務局のほうでチラシと一緒に修正案を出してもらいたい。
- 承知した。

【新たな支援団体の開拓について】

- チラシの配架については、市民活動センターよりも各市町村の環境セクションに配架したほうが、地域で活動している団体に周知できるのではないか。
- 環境農政局環境部資源循環推進課では、神奈川工科大学とタッグを組んで、レジ袋削減の啓発活動を行っており、若者を取り込んで行う活動もある。また、小田急線沿いの伊勢原駅、渋沢駅、秦野駅などでチラシを置いてもらえれば、非常に有効と思われる。

【現場訪問企画（案）について】

- 昨年の現場訪問の際使用した評価シートですが、現場での評価に適用するには難しい。団体は取組んでいる活動内容を話したいので、こちらの質問と回答が一致しないこともあり、評価ランクをつけるのは難しい。評価の仕方については、昨年度と違うものをつくったほうがよい。
- 評価の必要はないと思う。団体が活動していく上での課題を聞き取り、お互いが意見交換できる場になればよいのではないかと思う。昨年は、評価シートが全然書けなかった。
- 団体がどういった経緯で活動し、委員会に何を望んでいるのか、それを確認し受け止めることが一番の成果だと思うので、今回訪問する団体が何を望んでいるのか、それが分かればよいと思う。

【市民事業交流会企画（案）について】

- 事務局から説明があったとおり、補助団体の活動紹介展示をしていただくことになり、団体から体験教室（クリスマスリース）や間伐材を利用した作品などの出展をして頂く。また、県民フォーラムについては、補助団体の方を講師として講演していただくという案のようである。
- この交流会企画案の活動の趣旨は、補助団体の活動周知と団体間の交流の場であるが、そういった場合に、展示会をメインにするのか、団体間の交流をメインにするのか、両方というのはさすがに難しいと思う。団体間の問題を報告し合えるような場もあったほうがよいのではないか。
- これまでは県民フォーラムの会場ロビーで活動展を参加者に見て頂いたり、説明をしていた。しかし、団体の方が県民フォーラムに参加すると、団体間の意見交換が不十分になり、或いは休憩時間に多くの参加者が活動展を見ていると、自分たちが説明するのに忙しく、団体間の交流が出来なくなるというメリット・デメリットがある。どこに軸足を置くかということになる。
- 会場に行ったときに駅に隣接しているものの、商業施設のどこが入口なのか、動線が分かりづらかった。目的を持って来ている方にしか分からないので、しずくちゃんなどで案内し、呼び込んだほうがよい。
- また、呼び込みをする場合、道の分からない人を想定して、企画するなどの必要がある。
- 県民フォーラムチームの考えがまだ決まっていないようだが、県民フォーラムチームとよくシェアしないと。
- そのとおりである。
- 8月に県民フォーラムチームの会合があるようなので、今日の意見はそちらのほうにも提出していただいて、そこでほぼ決まってから、次の市民事業専門委員会のときに決めるということにしたい。

第63回市民事業専門委員会の結果概要 (H29. 9. 13)

1 議題 1 平成30年度市民事業支援補助金対象事業の募集について

資料に基づき、事務局から説明を行ったのち、補助金募集チラシの改定（案）及び平成30年度募集案内（案）等の検討を行った。

2 議題 2 市民事業現場訪問について

資料に基づき、事務局から説明を行ったのち、検討を行った。

3 議題 3 市民事業交流会について

資料に基づき、事務局から説明を行ったのち、検討を行った。

委員会における主な意見（○＝委員の発言 ●＝県側の発言）

【平成30年度市民事業支援補助金募集チラシ改定（案）及び平成30年度募集案内（案）等について】

- どういうところに配るのか。
- 昨年度は神奈川県内の図書館、県政情報センター、県内の市町村、自然環境に携わる事業をしているNPO法人等の団体等約400箇所に配った。今年度は、7月の委員会でお話のあった小田急線沿いの本厚木駅、伊勢原駅、渋沢駅、秦野駅に確認したところ、駅構内であれば駅に相応しい内容と判断されれば置いてもらえるとのことである。
- 小田原駅も効果があるのではないかと。また、チラシは手で直に配るのがよい。公募委員の方はいろいろな活動をされているので、配布の協力をしてもらったほうがよい。図書館へ置くだけでは可能性が低い。

【市民事業交流会について】

- 今日は県民フォーラムチームの森本リーダーに来てもらっている。
- 先日の県民フォーラムチームの打合せでは、いろいろな意見が出たが、市民事業交流会とコラボするのであれば、参加者をより多く集められるよう頑張ろうということになった。平成30年度市民事業補助金申請の個別相談会をやったらどうかという意見があった。将来の市民事業支援補助金を活用してくれそうな団体を発掘するためにも、様々な相談にのってほしい。
また、一般市民も来るので補助団体への寄付金や販売可能な団体には、寄付金や販売ができるよう配慮してあげるとよいと思うが厳しいか。
- 相談コーナーは事務局で対応する。また、今回使用会場より物販等は可能との回答を得ている。
- 寄付金や物販ができることを共通認識として団体へ周知してほしい。
- 承知した。
- 先ほど、県民フォーラムと共同開催という話が出たので事務局に確認したい。市民事業専門委員会はどのような立ち位置で参加するのか。
- 昨年と同様で、市民事業専門委員会として参加することは考えていない。

- 承知した。県民フォーラムと市民事業交流会は自主参加だが、市民事業団体が参加するので、市民事業専門委員も可能な限り参加してほしいという認識でよいか。
- 問題ない。
- それから、県民フォーラム開催中は、出来る限り市民事業団体の方もフォーラムに参加してもらいたい。
- 可能であれば参加してアピールしてほしいが、市民事業団体が発言できるような時間はあるのか。
- 市民事業団体の方に特化した時間は設けていない。
- 市民事業がクローズアップされるような仕掛けをしていただければと思う。
- フォーラムだと、限られた時間で、閉ざされた空間の中で、関心のある人だけにしか伝わらないので、別立てにしないといけない。新都市プラザで市民事業中心にやったときは、各団体が一般の方といろいろ話ができるのでそういう場が必要であり、県の税金を使って、どういう取組みをしているのかPRするのが目的である。

- | |
|------------------------------|
| 1 森のなかま 2012 活動現場の訪問（秦野市堀山下） |
| 2 なかい里山研究会 活動現場の訪問（中井町井ノ口） |

1 市民事業現場訪問行程表

| 時間帯 | 場所 | 内容 |
|-------------|------------------------------------|---------|
| 10:00 | 渋沢駅 北口 | 集合 |
| 10:00～10:20 | ジャンボタクシー | 移動 |
| 10:20～11:20 | 森のなかま 2012（高度化 森林・資機材） （秦野市堀山下） | 活動現場の視察 |
| 11:20～11:30 | ジャンボタクシー | 移動 |
| 11:30～12:30 | 近隣の飲食店等 | 昼食 |
| 12:30～13:00 | ジャンボタクシー | 移動 |
| 13:00～14:00 | なかい里山研究会（高度化 間伐） （中井町井ノ口） | 活動現場の視察 |
| 14:00～14:30 | ジャンボタクシー | 移動 |
| 14:30 | 秦野駅 南口 | 解散 |

2 位置図



3 概要

(1) 森のなかま2012（秦野戸川公園内）（森林の保全・再生/高度化 補助申請額 147 千円）

対応者：宮下会長

- ・ 秦野戸川公園内の山岳スポーツセンター入口において、団体の活動内容等の説明を受け、作業現場の視察を行った。
- ・ 作業現場視察中、同園内で活動している補助団体の「戸川森づくりの仲間」会員に遭遇したため、「戸川森づくりの仲間」の作業現場も見学させてもらい、山岳スポーツセンター会議室にて質疑等を行った。

(山岳スポーツセンター前)



(森のなかま 2012 作業現場)



(山岳スポーツセンター会議室)



(戸川森づくりの仲間)



【委員所感の集約】

- ・ 会員 21 名中、参加するメンバーが固定化されており、将来の活動の継続性に課題がある。
- ・ 秦野戸川公園で実施している活動だが、水源林としての整備と、都市公園としての景観に配慮した整備の方針・方法（下層植生の刈り払いの程度など）については、管理者である県公園協会と調整する必要がある。
- ・ 作業現場にのぼり旗がなかったのが残念。水源環境保全税を活用している取組であることを PR し、県民理解の促進、会員拡充に繋げて欲しい。
- ・ 作業の仕方、安全性に欠けている部分があったので、現場で指導を行った。（スギを伐採する際の注意事項、先折れした木や折れ曲がった木を伐採する際の注意事項など）技術が高くて、常に危機管理に対する意識を持つことが必要である。

(2) なかい里山研究会 (鴨沢ふれあい小屋) (間伐材の利活用促進/高度化 補助額 304 千円)

対応者：鈴木会長ほか

- ・団体の活動内容等の説明を受け、作業現場(炭焼き小屋の炭だし、炭の切断、薪割り、木酢液蒸留、竹細工など)の視察を行った。
- ・作業現場確認後、小屋内で質疑等を行った。



【委員所感の集約】

- ・会員同士のコミュニケーションがよく、それぞれが楽しく活動している様子が伺え、雰囲気が良いが、会員の高齢化という課題がみられるので、後継者として若手の会員獲得に努力してほしい。
- ・薪や炭の販売により、一定の収益を上げており、炭焼きや薪割りなど丁寧な仕事ぶりが伺える。ただ、活動を賄う潤沢な収益にまでは至っていない様子。キャンプ施設への薪販売、イベント・体験教室での更なる活動PRなどで収益アップが望まれる。
- ・補助金を活用して機械化を進めることで作業が効率化されており、市民事業支援補助金の有用性を感じた。現在の制度では、該当とならない資機材の拡充要望もあった。資機材については、望めば切りがないが、補助対象の考え方などについて今後の検討課題。